



橋本健一郎氏

三月前半は、ロシアが一

月水準での生産凍結を実施することを明らかにしたこと、ECBの景気刺激策期

待や中国株の上昇 原油の上昇 中国全人代への期待、サウジアラビア、ロシアなど主な産油国が増産凍結に向けて追加協議する。世界的な生産調整が進むとの思惑などのプラス材料もあったが、中国国家統計局発表の二月の製造業PMIが四九と七カ月連続で五〇を割り込んだものの昨年十・十二月期の日本のGDPが前の四半期と比べて〇・四%減、年あたりの換算で一・四%減となり、二〇一五年四・六月期以来のマイナス成長に沈んだ事、二月の中国貿易収支が悪化した事、イランのザンギヤネ石油相が「同国の原油生産量が日量四〇〇万バレルに達するまでは増産凍結に合意しない」と述べたと伝わったことなどを嫌気しLMEアルミ相場はDOWN。三月十五日時点一、五二五ドル(現物後場買入)と月初価格から七九ドルDOWNの前半締めとなつた。

後半は、複数の米金融当局者が四月利上げの可能性に言及していること、クウェートの石油相が二〇一四年秋以降、操業を停止していた油田について、共同操業するサウジアラビアと再開することで合意したこと、などのマイナス材料もあつたが、OPECやロシアなどの主要産出国で四月十七日にカタールのドーハで会合を開く、増産凍結について協議するとの報を受けニヨーヨーク原油先物相場は十七日に一バレル四〇ドル台を回復し、約三カ月ぶりの高値を付けたことを好感しLMEアルミ相場はUP。

四月六日現在LME(現物後場)一、五〇二ドルと後半スタート価格から七ドルUPしてのスタートとなつた。

◆月間のドル／円レート (TTS)

一一三・六五→一一三・三八(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比六・九%減の七六万六、八〇四台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比三・一%減の四〇万台、八三二台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比七・八%増の七万二、八三二戸であった。

LME 一、四〇〇ドルまで下落の可能性も

アルミ

橋本金属 橋本健一郎氏 リポート②

輸出は地金、スクランプとも増加
アルミニウム

・アルミ 橋本健一郎氏 リポート②

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミニウム新地金が前年比一〇五・八%増の九七t、二次合金が一四二・六%増の一、九四六t、スクランプが六〇・二%増の九、二六一t、アルミニ缶が一六九・八%増の三、七三一t。

輸入

輸入は新地金が前年比一六・八%減の一〇万九、二五二t、一次合金が八・七%減の八万五、七七九t、スクランプが五三・一%減の五〇六t、合金スクランプは五九・六%減の一、六九四t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二二%増の一六万四、七五六t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比一・二%減の六万五、〇六三tであった。

■概況

二月の四輪車生産台数は七六万六、八〇四台で、前年同月の八二万三、八六四台に比べて五万七、〇六〇台(六・九%)の減少となり、三カ月連続で前年同月を下回つた。

二月の国内需要は四五万一、三三〇台で、前年同月比六・四%の減少があつた。うち乗用車三八万二、一一六台で前年同月比七・五%の減少、トラック六七、八五二台で同〇・一%の減少、バス一、三六二台で同三七・四%の増加。

三月の国内自動車販売台数(軽除く)は四〇万四、八一三台で前年比三・二%減。二カ月連続マイナス。うち乗用車二・七%減、貨物六・三%減、バス五・一%増。

【住宅着工数】

【自動車販売】

・平成二十八年一月の住宅着工戸数は七万二、八三二戸で、前年同月比で七・八%増となつた。また、季節調整済年率換算値では九七・四万戸(前月比一一・六%増)となつた。

・利用関係別みると、実数値では、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となつた。また、季節調整値についても前月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となつた。(六面へ続く)

(四面より続く)

・平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響から持ち直しが見られた後、このところ横ばいの傾向となつたが、二月は前年同月比で二カ月連続の増加となつた。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】
前年比一・二%減の六万五、〇六三t。一七力月連続マイナス。出荷は一%減の六万四、九二二t。一五力月連続マイナス。うち、出荷先別では、鋳物七・九%減、ダイカスト二・七%増、板七・六%減、押出一・六%増、鐵鋼八%減、合金地金メーカー一三%増。

【アルミニウム圧延・押出品生産数】
二・三%増と三カ月ぶりプラスの一六万四、七五六t。板類生産はプラスに転ず、出荷は三カ月ぶりにプラス(出荷は先月の一・三%減↓一・九%増へプラスに転ず)。押出類は生産・出荷とも一七カ月ぶりにプラス(出荷は先月の一・五%減↓三・七%増へプラスに転ず)。

【見通し】

・自動車は生産が六・九%減。三月の国内

販売台数が前年比三・二%減。生産が三カ月連続マイナス、販売が二カ月連続マイナス。生産が連続減少となつた。販売の方も二カ月連続マイナスに。新年度入り後の動向に注目。

・住宅着工の動向については、平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが見られた後、このところ横ばいの傾向となつたが、二月は前年同月比で二カ月連続の増加となつた。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、自動車生産の減少を受けて減少、さらに、鉄鋼系への出荷も大幅に減少。ただ、住宅着工の増加を受けて押出し

向け出荷が二・六%増。今後に期待。
・輸出 内需の低迷を受けて大幅増加。特にアルミニ缶が大幅増の一六九・八%増!

・輸入 内需の低迷や円高から減少。

【スクランプ需給予想】

流通在庫は、スクランプ価格の下落を受け塩漬け玉はほとんどないのではないか?ここ最近ほとんどの分野で生産減の現象が続いているが、発生難の状況が続いている。ここ最近の輸出増を考えれば更に需給のひつ迫状態は続くであろう。

【価格・為替予想】

今月は、四月十七日開催のドーハ原油会議、米利上げ問題に左右される。

四月十七日のドーハ原油会議に関しては、クウェートの石油相が二〇一四年秋以降、操業を停止していた油田について、共同操業するサウジアラビアと再開することで合意したとのコメントや、ロシアのノバク・エネルギー相が、大多数の産油国が増産凍結で合意したと述べたなど強弱材料が入りこむ中、最新ではクウェート当局者の発言として「イラン抜きでも増産凍結で合意できる」と報じ、クウェートでは石油相も「年後半には原油相場の需給のバランスがとれる」などと述べたことから条件付きでの増産凍結になる可能性が高いのではないか。

米利上げ問題に関しては、セントルイス連銀のブレード総裁が四月の利上げの可能性を示唆したことと、複数の米金融当局者が四月利上げの可能性に言及しているが、二月の米貿易赤字は四七〇・六億ドルに拡大、予想は四六一億ドルだったことを考えれば四月の利上げはないのではないか。

それらを踏まえた四月のアルミニス連銀の上昇が先送りされ、原油の増産凍結合意が行われた場合、三月高値の一・五〇〇ドルを予測。いずれかの場合の一・五〇〇ドル。下値はいづれの条件も達成できなかつた場合三月も一・四〇〇ドル。

為替は、先月日本が先のG-10で為替介入に関して、自制を求めるように針を刺された事に因る。しかし、米経済指標の悪化から介入は難しいが、米金融当局者が四月利上げの可能性に言及しているが、二月の米貿易赤字は四七〇・六億ドルに拡大、予想は四六一億ドルだったことを考えれば四月の利上げはないのではないか。

それらを踏まえた四月のアルミニス連銀の上昇が先送りされ、原油の増産凍結合意が行われた場合、三月高値の一・五〇〇ドルを予測。いずれかの場合の一・五〇〇ドル。下値はいづれの条件も達成できなかつた場合三月も一・四〇〇ドル。

為替は、先月日本が先のG-10で為替介入の為替対策を結果的に一切行わず、原油価格が下落した場合安全資産の円買いから円に逃避資金が集まる可能性が高い。

それらを踏まえ予測は、上値は日本が何らかの為替対策を結果的に一切行わず、原油価格が下落した場合安全資産の円買いから一〇九円台(TTM)を予測。下値は、日本がさらなるマイナス金利策や為替介入などをを行い、原油の増産凍結により価格が安定した場合、一二五円を予測。

メーカースクラップ購入価格は〇・五円高と予測している。